

# 造 形 (中学校2年)「陶芸」

## 1. 授業の実際 授業校 千葉市立千草台中学校 指導者 宮本 善紀

(1) 単元名(題材) 「現代陶芸入門・土と炎の芸術」～世界でたった一つのオブジェをつくろう～

(2) 本時の目標

- ①課題を理解し意欲的に制作に取り組むことができる。 (関心・意欲・態度)
- ②自分のイメージを大切にしながら、立体の上に加飾のための図案を描くことができる。 (発想や構想の能力)
- ③様々な道具を使って、装飾の効果を考えながら模様をつけることができる。 (創造的技能)

(3) 本時の展開 (11 / 20)

学習課程	学習活動と内容	教師の支援	評価
導入 (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の内容を確認する。</li> <li>○本時の活動内容を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○挙手により進捗の確認をする。</li> <li>○表情を観察し、個々の理解度をつかむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○話をよく聞き本時の学習に対する見通しが持てる。</li> <li>(関・意・態)</li> </ul>
成形した立体に、自分の構想を活かす装飾をする			
展開 (30)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のイメージを大切にしながら、立体に図案をもとに写していく。</li> <li>○全体のバランスを考えて、装飾する部分と、しない部分を考えさせる。</li> <li>○彫刻刀やカッターを使い表面を彫ったり、トースカンやドリルの刃を使って穴をあけたり、工夫して彫る。</li> <li>○途中で作品全体を眺め穴や削った箇所の効果を見ながら彫りを修正する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○カッターの先や竹串を使って写し、間違ったらヘラで表面をこすって消すことを理解させる。</li> <li>○全体のバランスを考えて、装飾する部分を考えさせる。</li> <li>○表面を削る、部分を切り取る、穴をあける、別の粘土を貼り付けるなど、いろいろな装飾の方法の活用を工夫させる。</li> <li>○途中で進捗を確認して意欲を喚起する。</li> <li>○制作が遅れている生徒を確認し個々に激励し発想のヒントを教える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己の課題に真剣に取り組むことができる。(関・意・態)</li> <li>○加飾の条件を理解し図案をもとにバランスよく立体に写し取ることができる。(発想・構想)</li> <li>○装飾の方法と効果を生かした模様をつけることができる。(創造的技能)</li> </ul>
まとめ (7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自他の作品を鑑賞し、お互いの成果を認め合い、次時の課題と見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒作品をいくつか紹介し次時の制作の参考とするよう呼びかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自他の作品の良さに気づけたか。(関・意・態)</li> </ul>
後始末 (8)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○後始末を協力して行う</li> <li>○次回を考えてビニール袋をかぶせたり養生する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○後始末を協力して行わせる。</li> <li>○次回を考えてビニール袋をかぶせたり養生させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○次回を考え、工夫して養生をすることができたか(関・意・態)</li> </ul>

## 2. 課題と成果

(1) 学校環境を上手に利用し、生徒が積極的に授業に取り組める美術室になっている。安全面にも配慮がなされている。

(2) 教師側の豊富な経験と知識に基づいた授業なので、生徒が安心して自分の思いを表現できていた。